

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 スポーツウエルネス学学位プログラム【博士前期課程】

※本学位プログラムは、令和元年度以前の「人間総合科学研究科スポーツ健康システム・マネジメント専攻(修士課程)」に相当します。

過去の修了状況については、当該専攻の情報を用いています。

Webサイト <https://www.shp.taiiku.otsuka.tsukuba.ac.jp/>

特色

本学位プログラムは、スポーツと健康の相乗的効果を基本理念にして、スポーツプロモーションとヘルスポモーションの2分野で編成されています。スポーツプロモーション分野には、スポーツプロモーション領域と、スポーツマネジメント領域の2領域があり、ヘルスポモーション分野には、ヘルスポモーション領域と、ストレスマネジメント領域の2領域があります。いずれの分野も、現代社会に直結した課題に取り組んでいます。

領域・教育方法

(1)スポーツプロモーション領域

スポーツプロモーション論、スポーツイベント論を中心に、スポーツ推進の理念、目的、内容、課題と方法について検討するとともに、必要な資源とシステムの開発やスポーツによる政治、経済、文化等の社会的プロモーション等について教育研究を行います。

(2)スポーツマネジメント領域

スポーツマネジメント論、高度競技スポーツマネジメント論を中心に、スポーツ愛好者組織とクラブマネジメント、競技スポーツ組織について検討するとともに、国際競技力開発や普及・推進のためのシステム編成とそのマネジメント等について教育研究を行います。

(3)ヘルスポモーション領域

ヘルスポモーション論、健康開発プログラム論を中心に、健康づくりのための政策課題と社会計画のデザイン、地域システムの編成を検討するとともに、多様な社会的環境と生活スタイルに対応した健康開発プログラム等について教育研究を行います。

(4)ストレスマネジメント領域

ストレスマネジメントシステム論、コミュニティメンタルヘルス論を中心に、健康行動としてのストレスマネジメントの在り方や技法とシステム化を検討するとともに、個人をとりまく社会環境要因が個人の健康に影響を及ぼすという視点から、コミュニティメンタルヘルスについて教育研究を行います。

応募状況

令和3年度

入試種別	募集定員	志願者数	合格者数	入学者数
推薦	8	14	8	7
一般	16	25	17	15

令和4年度

入試種別	募集定員	志願者数	合格者数	入学者数
推薦	8	13	8	8
一般	16	41	18	18

令和5年度

入試種別	募集定員	志願者数	合格者数	入学者数
推薦	8	13	5	5
一般	16	30	19	19

※スポーツプロモーション分野とヘルスポモーション分野を合わせて24名の定員となります。

修了状況

スポーツプロモーション分野

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
スポーツウエルネス学		11	9
体育学	11		

ヘルスポモーション分野

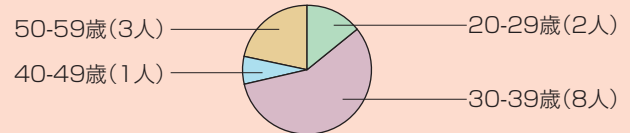
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
スポーツウエルネス学		8	13
保健学	14		

※令和2年度まではスポーツ健康システム・マネジメント専攻のデータです。

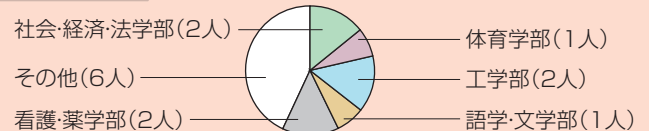
入学者関係データ 令和5年度

スポーツプロモーション分野入学者 / 14名(男性8名,女性6名)

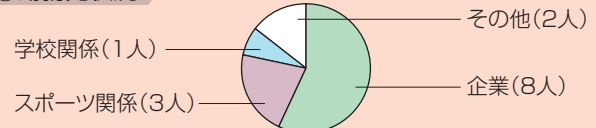
①年齢分布(平均年齢38.2歳)



②出身学部等

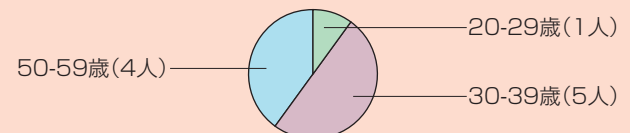


③勤務先状況

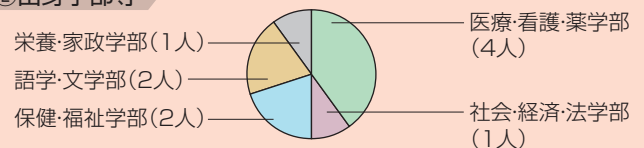


ヘルスポモーション分野入学者 / 10名(男性3名,女性7名)

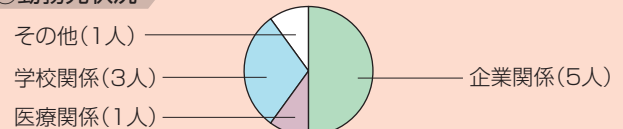
①年齢分布(平均年齢41.3歳)



②出身学部等



③勤務先状況



人間総合科学学術院
人間総合科学研究群
(博士前期課程)

スポーツウエルネス学学位プログラム





教育課程シラバスは
(URL: <https://kdb.tsukuba.ac.jp/>)
または、学位プログラム Web サイト
(URL: <http://www.shp.taiiku.otsuka.tsukuba.ac.jp/>) から
ダウンロードできます。

令和5年度学年暦カレンダー【東京キャンパス標準暦】




大学院関係:東京キャンパス

春学期								秋学期									
曜日	日	月	火	水	木	金	土	備考	曜日	日	月	火	水	木	金	土	備考
4月							1	春季休業4.1-4.10 入学式4.8、新入生オリエンテーション4.8 春学期授業開始4.11	10月	1	2	3	4	5	6	7	開学記念日10.1(開学50周年記念イベント開催予定) 秋学期授業開始10.3
	2	3	4	5	6	7	8			8	9	10	11	12	13	14	
	9	10	11	12	13	14	15			15	16	17	18	19	20	21	
	16	17	18	19	20	21	22			22	23	24	25	26	27	28	
	23	24	25	26	27	28	29			29	30	31					
	30																
5月		1	2	3	4	5	6		11月				1	2	3	4	11.11臨時休業(入学試験実施)
	7	8	9	10	11	12	13			5	6	7	8	9	10	11	
	14	15	16	17	18	19	20			12	13	14	15	16	17	18	
	21	22	23	24	25	26	27			19	20	21	22	23	24	25	
	28	29	30	31						26	27	28	29	30			
6月					1	2	3		12月						1	2	冬季休業12.24-1.5
	4	5	6	7	8	9	10			3	4	5	6	7	8	9	
	11	12	13	14	15	16	17			10	11	12	13	14	15	16	
	18	19	20	21	22	23	24			17	18	19	20	21	22	23	
	25	26	27	28	29	30				24	25	26	27	28	29	30	
7月							1	春学期授業終了7.29	1月		1	2	3	4	5	6	
	2	3	4	5	6	7	8			7	8	9	10	11	12	13	
	9	10	11	12	13	14	15			14	15	16	17	18	19	20	
	16	17	18	19	20	21	22			21	22	23	24	25	26	27	
	23	24	25	26	27	28	29			28	29	30	31				
	30	31															
8月			1	2	3	4	5	春ABCモジュール期末試験7.25, 8.2-8.5 予備日8.1, 8.9-8.10 夏季休業8.11-9.30	2月					1	2	3	秋学期授業終了2.2 秋ABCモジュール期末試験1.30-1.31, 2.3, 2.8-2.9 予備日2.6-2.7 春季休業2.10-3.31
	6	7	8	9	10	11	12			4	5	6	7	8	9	10	
	13	14	15	16	17	18	19			11	12	13	14	15	16	17	
	20	21	22	23	24	25	26			18	19	20	21	22	23	24	
	27	28	29	30	31					25	26	27	28	29			
9月						1	2	開学50周年記念式典9.30	3月						1	2	法科大学院修了日3.15 大学院学位記授与式3.30
	3	4	5	6	7	8	9			3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16			10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23			17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30			24	25	26	27	28	29	30	
授業 日数			⑮	⑮	⑮	⑮	⑮		授業 日数			⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	

(注)

1. 太字は、国民の祝日に関する法律による休日(振替え休日含む)を示す。
2. 期末試験日は  で示し、試験予備日は  で示す。
3. 休業日は  で示す。
4. 入学式・新入生オリエンテーション・学位記授与式は  で示す。
5. 11月11日(土)は入学試験関係で全日臨時休業とする予定。

※ 各学期は、A,B,Cの3つのモジュールに分かれます。

	Aモジュール
	Bモジュール
	Cモジュール

令和5年度開設授業科目一覧
スポーツウエルネス学学位プログラム(博士前期課程)

1-1専門科目(必修)分野共通

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OAS0603	スポーツ・ヘルスプロモーション方法論	1	1.0	1・2	春C	水7,8		山口 香, 久野 譜也, 高橋 義雄, 辻 大士	スポーツ・ヘルスプロモーションの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な方法論について概説する。各自の研究計画の実現に向けて、研究デザインと科学的方法の客観性を担保する方法基礎論を理解し、文献や資料のオンライン検索の方法を学ぶ。また、社会調査法の一般的な手順を概説する。さらに、調査や実験データの分析法・検定法などの統計手法について、分析や検定結果の解釈法について文献を用いて理解したり、実際に統計解析ソフトを用いながら理解を深める。	01EK002と同一 対面
OATS011	スポーツ・ヘルスプロモーション論概論	1	2.0	1・2	春AB	水7,8		高橋 義雄, 尾縣 貢, 山口 香, 安藤 梢, 久野 譜也, 柴田 愛, 水上 勝義, 辻 大士, 和久 貴洋, 清水 和弘	現代社会におけるスポーツプロモーションとヘルスプロモーションの理念を理解し、その相互の合理的な関係化による相乗的効果を上げることの重要性について学習する。スポーツとヘルスの相関的・相乗的な関係の基本理念とその哲学について、人間存在の生理的・心理的・社会的な特質との関係から概説する。また、現代社会における長寿化人生、ハイテク・情報化生活等の生活変容に注目しながら、人間存在の現代的課題を取り上げ、そこにおけるスポーツ文化享受による健康開発の可能性を環境世界、社会・文化生活、諸個人のライフスタイルやライフステージとの関係から概説し、エコロジーと共生を希求する21世紀世界におけるスポーツ・ヘルスプロモーションの相乗的な効果を上げるための政策課題について講義する。	履修は本学位プログラムの在籍生に限る 01EK001と同一。 対面
OATS021	スポーツ健康研究方法論I	2	1.0	2	春ABC	随時		高橋 義雄, 尾縣 貢, 山口 香, 安藤 梢, 久野 譜也, 柴田 愛, 水上 勝義, 辻 大士, 和久 貴洋, 清水 和弘	研究計画を立案し、研究テーマを設定し、研究テーマ届を提出することを目標とする。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関する研究について担当教員の指導のもとに先行文献を参照しながら研究計画を立案し、研究テーマを設定し、研究テーマ届を提出する。	01EK003と同一。 対面

1-2専門科目(選択)分野共通

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OATS032	スポーツ健康研究方法論II	2	1.0	2	秋A	随時		高橋 義雄, 尾縣 貢, 山口 香, 安藤 梢, 久野 譜也, 柴田 愛, 水上 勝義, 辻 大士, 和久 貴洋, 清水 和弘	学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができることを目標とする。スポーツ・ヘルスプロモーションの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な研究方法について、学習する。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。そして、学位論文中間発表会に終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表を行う。	01EK004と同一。 対面
OATS033	スポーツ健康研究方法論III	2	1.0	2	春A	随時		高橋 義雄, 尾縣 貢, 山口 香, 安藤 梢, 久野 譜也, 柴田 愛, 水上 勝義, 辻 大士, 和久 貴洋, 清水 和弘	学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができることを目標とする。スポーツ・ヘルスプロモーションの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な研究方法について、学習する。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。そして、学位論文中間発表会に終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表を行う。	9月末修了予定者用 01EK005と同一。 対面

2-1-1専門科目(選択)スポーツプロモーション領域

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OATS110	スポーツプロモーション論特講	1	2.0	1・2	秋AB	木7,8		仲澤 真	現代社会におけるスポーツプロモーションの基本理念を理解し、現代スポーツの社会的構造を分析するとともに、スポーツプロモーションの課題について学習する。スポーツの文化性の向上と公益性の発揮に資するスポーツプロモーションのあり方を概説する。	01EK101と同一。 対面

OATS111	スポーツプロモーション論演習1	2	1.0	1・2					スポーツプロモーションに関する各自の問題意識を反映するテーマについて明確な動機・目的につながる内容を主にメディアスポーツ、スペクテータースポーツ、スポーツの生産と消費の観点から演習し、スポーツプロモーションにおける政策立案モデルを描けるようにする。国レベル、地域レベル、団体レベルのスポーツプロモーション政策の具体的事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその政策課題を相互比較し、それぞれの特徴と課題を明らかにする。こうして養われるスポーツプロモーション政策形成の具体的分析力を基礎に、それぞれの学生の現職経験に基づくスポーツプロモーション問題を取り上げ、そこに作用する政治課題のベクトルと生活課題のベクトルをシミュレーションすることによって政策課題を明確にし、政策立案のモデル化について演習する。	01EK112と同一。 2023年度開講せず。
OATS112	スポーツプロモーション論演習2	2	2.0	1・2					グローバル化する世界のスポーツの文化状況を踏まえながら、これからのスポーツプロモーションにおけるビジョンと課題を検討し、諸外国のスポーツ文化状況を通じた多様なスポーツライフスタイルを構想して、スポーツプロモーションに関する具体的な問題意識を醸成する。概念レベル、歴史レベル、社会レベルのスポーツプロモーションに関わる文化的課題を取り上げ、それらの課題を相互比較し、我が国のスポーツプロモーションの在り方を検討する。こうして養われるスポーツプロモーション政策形成の具体的分析力を基礎に、それぞれの学生の現職経験に基づくスポーツプロモーション問題を取り上げ、そこに作用する政治課題のベクトルと生活課題のベクトルをシミュレーションすることによって政策課題を明確にし、スポーツの文化的アイデンティティに基づく政策立案のモデル化について演習する。	01EK113と同一。 2023年度開講せず。
OATS113	スポーツプロモーション論実習	3	1.0	1・2					現職経験から導かれるスポーツプロモーション問題を政策科学の視点から課題化し、各自が対象とする具体的な組織や関連イベントにかかわるスポーツプロモーションの現状と課題を明らかにする。学生の現職経験から導かれるスポーツプロモーション問題を、政策科学の視点から政策課題化し、それに基づく政策目標-政策対象-政策条件-政策計画のシミュレーションを行う。このシミュレーションモデルに基づき、政策展開に必要な環境的・物的・人的・文化的資源を査定し、当該政策実施における既存資源を評価し、過剰/不足資源を明確にする。さらに、明確化された不足資源の整備・開発を計画すると共に、政策展開の視点から見た有効資源のシステムをデザインし、具体的な政策モデルをシミュレーションする。	01EK105と同一。 2023年度開講せず。
OATS120	スポーツイベント論特講	1	2.0	1・2	春AB	金7,8		高橋 義雄	スポーツプロモーションにおけるスポーツイベントの理念と意義を理解するとともに、スポーツイベントと地域形成、現代社会におけるスポーツイベント政策、プロフェッショナルスポーツの発展過程などについて、その歴史社会的な意味や現代的機能を探究する。スポーツイベントの社会的需要・供給関係を軸にした社会的構造・機能モデルに基づいて、スポーツプロモーションにおけるスポーツイベントの理念と意義を概説する。これに基づいて、現代社会におけるスポーツイベントのポジティブ/ネガティブな地域形成作用を分析し、そこから現代社会におけるスポーツイベント政策の社会的役割を分析する。また、プロフェッショナルスポーツの発展過程を分析し、その社会及び地域形成に関わる意味と機能について概説する。	集中講義10:00~ 01EK106と同一。 対面
OATS121	スポーツイベント論演習1	2	1.0	1・2	春ABC	随時		高橋 義雄	スポーツイベントにかかわる各自の研究関心に沿って、経営学分野、特にイノベーション研究を取り上げ、その課題を演習する。国際、国、地域、各レベルにおけるスポーツイベントの事例を取り上げ、その社会的な構造と機能を理解しながら課題を演習する。国際レベル、国レベル、地域レベルのスポーツイベントの具体的事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその構造的・機能的特性を相互比較し、それぞれのスポーツ及び地域プロモーションに関する政策課題について演習する。また、プロフェッショナルスポーツの具体的事例から、スポーツイベントの展開過程における問題と課題について演習する。	01EK114と同一。 対面

OATS122	スポーツイベント論演習2	2	2.0	1・2	秋AB	水7,8	高橋 義雄	スポーツイベントにかかわる各自の研究関心に沿って、適切な研究方法を選択し、先行研究を取り上げて各自の研究について演習する。スポーツイベント論実習と平行して行い、実習の事例を取り上げ、その社会的な構造と機能を理解しながら課題を演習する。国際レベル、国レベル、地域レベルのスポーツイベントの具体的事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその構造的・機能的特性を相互比較し、それぞれのスポーツ及び地域プロモーションに関する政策課題について演習する。また、プロフェッショナルスポーツの具体的事例から、スポーツイベントの展開過程における問題と課題について演習する。	01EK115と同一。 対面
OATS123	スポーツイベント論実習	3	1.0	1・2	通年	随時	高橋 義雄	スポーツイベント論演習で学んだスポーツイベントにかかわる研究方法を採用し、その研究方法で指定されたスポーツイベントを調査する。フィールド調査、アンケート調査など個人または研究グループを結成し、調査プロジェクト実施方法を学ぶ。学生の現職経験から導かれるスポーツイベント問題を、スポーツプロモーションと地域形成の視点から政策課題化し、それに基づきスポーツイベント展開のマネジメントのシミュレーションを行う。このシミュレーションモデルに基づき、スポーツイベント編成に必要な諸エージェントと資源を査定し、当該イベント展開における関係エージェントと資源のシステム化をシミュレーションし、具体的なスポーツイベントの政策マネジメントモデルを企画・立案する。	01EK110と同一。 対面
OATS164	スポーツプロモーション研究方法論IV	2	2.0	2	秋ABC	随時	高橋 義雄	スポーツプロモーションに関する研究方法論について、その視角、課題について理解し、実証的な視点から検討して修士論文あるいは特定課題研究報告書を作成することを目標とする。学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、政策科学的視点からその存立状況を構造的に分析することによって、専門研究にむけて課題化する。さらに明確化された専門課題解決の可能性と限界を明らかにし、問題解決に対応する専門研究の研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究報告書を作成する。	01EK116と同一。 対面
OATS165	スポーツプロモーション研究方法論V	2	2.0	2	春ABC	随時	高橋 義雄	スポーツプロモーションに関する研究方法論について、その視角、課題について理解し、実証的な視点から検討して修士論文あるいは特定課題研究報告書を作成することを目標とする。学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、政策科学的視点からその存立状況を構造的に分析することによって、専門研究にむけて課題化する。さらに明確化された専門課題解決の可能性と限界を明らかにし、問題解決に対応する専門研究の研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究報告書を作成する。	9月末修了予定者用 01EK117と同一。 対面

2-1-2専門科目(選択)スポーツマネジメント領域

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OATS210	スポーツマネジメント論特講	1	2.0	1・2	秋B	火7,8,集中		尾縣 貢	地域のスポーツクラブと学校の運動部の共存共栄がわが国のスポーツの更なる発展には求められている。マネジメントの面から、それぞれの活動における問題点を明確にし、今後、取り組むべき課題とそれらを解決するための具体的な取り組みについて概説する。	集中講義10:00~ 01EK201と同一。 11/25, 12/9 対面
OATS211	スポーツマネジメント論演習1	2	1.0	1・2	秋ABC	随時		尾縣 貢, 和久 貴洋	スポーツマネジメントに関する解決すべき研究課題を設定し、文献研究を行ったうえで、各自の研究のデザインを作成する。スポーツ基本法、スポーツ立国戦略、学習指導要領等からわが国のスポーツが進むべき方向を考えるとともに、実際の地域スポーツクラブおよび学校運動部の活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握させ、それぞれが共存共栄し、スポーツ文化を形成する上での礎となるための方策についてスポーツマネジメントの観点から検討していく。	01EK212と同一。 対面

OATS212	スポーツマネジメント 論演習2	2	2.0	1・2	春AB	火7,8	尾縣 貢, 和久 貴 洋	スポーツマネジメントに関する研究を取り上げ、それらを抄読することにより、今後解決すべき課題を明確にしたうえで、各々の課題を解決するための研究的取り組みについて理解する。スポーツ基本法、スポーツ立国戦略、学習指導要領等からわが国のスポーツが進むべき方向を考えるとともに、実際の地域スポーツクラブおよび学校運動部の活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握させ、それぞれが共存共栄し、スポーツ文化を形成する上での礎となるための方策についてスポーツマネジメントの観点から検討していく。	01EK213と同一。 対面
OATS213	スポーツマネジメント 論実習	3	1.0	1・2	通年	随時	尾縣 貢	学生の現職経験や体験から導かれる地域のスポーツクラブと学校の運動部における具体的成功例や失敗例を分析することで、マネジメント上の問題点を明らかにし、解決すべき課題をあげる。そして、現職経験等から見た課題解決のために必要な方策を考案し、その方策の有用性に関して議論を繰り返すことで、包括的なマネジメント戦略を構築していく。	01EK205と同一。 対面
OATS220	高度競技マネジメント 論特講	1	2.0	1・2	春A 春B	集中 木7,8	山口 香	国際競技力開発の理念としてのスポーツ・プロフェッショナルリズムの重要性およびシステム編成に必要な資源評価・査定・開発とそのシステムマネジメントの課題と方法論について理解する。国際競技力開発に関する世界的状況を概括し、我が国における問題と課題を明らかにする。そして、国際競技力開発の仕組みを「発掘・育成・強化・支援」の各開発段階における物的・人的・文化的資源のシステム化として概観し、システム編成に必要な資源評価・査定・開発とそのシステムマネジメントの課題と方法論について講義する。	01EK206と同一。 4/22、5/13 対面
OATS221	高度競技マネジメント 論演習1	2	1.0	1・2	春ABC	随時	山口 香	オリンピックにおいて競技者の最高パフォーマンスを発揮させるために必要なマネジメントの実践的な課題を、国際・国内スポーツ組織論、情報戦略論、競技パフォーマンス分析論、競技者及びチームマネジメント論、メディアマネジメント論等の総合的戦略として理解する。国際競技大会において競技者及びチームの最高パフォーマンスを発揮させるために必要なマネジメントの実践的な課題を、国際・国内スポーツ組織論、情報戦略論、競技パフォーマンス分析論、競技者及びチームマネジメント論、メディアマネジメント論、スポンサー対応論等の総合的戦略として理解させ、オリンピック競技大会やワールドカップ等の具体的な事例に対応する国際競技スポーツマネジメントのシミュレーションを行う。	01EK214と同一。 対面
OATS222	高度競技マネジメント 論演習2	2	2.0	1・2	秋AB	水7,8	山口 香	スポーツ基本法、スポーツ立国戦略、学習指導要領等からわが国のスポーツが進むべき方向を考えるとともに、実際の地域スポーツクラブおよび学校運動部の活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握させ、それぞれが共存共栄し、スポーツ文化を形成する上での礎となるための方策についてスポーツマネジメントの観点から検討していく。	01EK215と同一。 対面
OATS223	高度競技マネジメント 論実習	3	1.0	1・2	通年	随時	山口 香	学生の現職経験から導かれる国際競技大会における具体的な成功事例や失敗事例等を競技力開発と総合戦略の視点から捉え直し、そこにおける国際競技マネジメントの具体的な課題を明らかにする。そして、現職経験との関係から見た課題解決のために必要な資源評価・査定・開発及びシステム編成のモデルをデザインし、そのモデルと現職経験の比較検討を通して、具体的な課題解決に向けたマネジメント戦略をシミュレーションする。	01EK210と同一。 対面
OATS230	プロスポーツマネジメント 論特講	1	2.0	1・2	秋A	金7,8, 集中	安藤 梢	野球、サッカー、バスケットボールなど多くのプロスポーツが進展している。プロスポーツにおけるマネジメントの在り方や課題について理解する。アスリートのトレーニング・育成、クラブ運営、リーグ運営、地域との連携、などのプロスポーツにおけるマネジメントについて具体的な取り組みや課題について議論していく。また、女子プロリーグの在り方について論じると共に、男子プロリーグにはない課題や推進策についても探究していく。	集中講義10:00~ 10/28、11/4 対面

OATS231	プロスポーツマネジメント論演習1	2	1.0	1・2	秋ABC	随時		安藤 梢	プロスポーツマネジメントに関する解決すべき研究課題を設定し、文献研究を行ったうえで、各自の研究のデザインを作成する。スポーツ基本法、スポーツ立国戦略等から我が国のプロスポーツが進むべき方向を考えるとともに、実際のプロスポーツリーグおよびクラブの活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握させ、スポーツ文化やビジネスを形成する上での礎となるためのプロスポーツ推進策についてプロスポーツマネジメントの観点から検討していく。	対面
OATS232	プロスポーツマネジメント論演習2	2	2.0	1・2	春AB	火7,8		安藤 梢	プロスポーツマネジメントに関する研究を取り上げ、それらを抄読することにより、今後解決すべき課題を明確にしたうえで、各々の課題を解決するための研究的取り組みについて理解する。スポーツ基本法、スポーツ立国戦略等から我が国のスポーツが進むべき方向を考えるとともに、実際のプロスポーツリーグおよびクラブの活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握させ、スポーツ文化やビジネスを形成する上での礎となるためのプロスポーツ推進策についてプロスポーツマネジメントの観点から検討していく。	対面
OATS233	プロスポーツマネジメント論実習	3	1.0	1・2	通年	随時		安藤 梢	学生の現職経験や体験から導かれるプロスポーツリーグとクラブにおける具体的成功例や失敗例を分析することで、マネジメント上の問題点を明らかにし、解決すべき課題をあげる。そして、現職経験等から見た課題解決のために必要な方策を立案し、その方策の有用性に関して議論を繰り返すことで、包括的なマネジメント戦略を構築していく。	対面
OATS264	スポーツマネジメント研究方法論IV	2	2.0	2	秋ABC	随時		尾縣 貢, 山口 香, 安藤 梢, 和久 貴洋	現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究的視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高めることを目標とする。スポーツマネジメントに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究の作成を導く。	01EK216と同一。 対面
OATS265	スポーツマネジメント研究方法論V	2	2.0	2	春ABC	随時		尾縣 貢, 山口 香, 安藤 梢, 和久 貴洋	現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究的視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高めることを目標とする。スポーツマネジメントに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究の作成を導く。	9月末修了予定者用 01EK217と同一。 対面

2-2専門科目(関連)スポーツプロモーション分野

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OATS311	スポーツプロモーション法制論特講	1	1.0	1・2					スポーツプロモーションに関係する法制全般を概説し検討する。また、今後のスポーツ立法政策について考える。スポーツ関連法制について概観し、スポーツプロモーションに向けたスポーツ法制度の構造や諸課題を具体的な事例を通じて講義する。アマチュアスポーツやスポーツ行政だけでなくプロスポーツやスポーツの経済的活動に関する法制も解説する。	西暦偶数年度開講。 01EK302と同一。
OATS312	スポーツの倫理と教育	1	1.0	1・2	春C	集中		深澤 浩洋, 長谷川 悦示	我が国のスポーツプロモーションにおけるスポーツの倫理と教育の可能性について、歴史的変遷や諸外国との比較を通じて説明できる。また、我が国のスポーツ教育の政策の歴史を踏まえ、今後の課題について説明することができることを目標とする。我が国のスポーツプロモーションにおけるスポーツの倫理について、ルールやエトス、フェアプレイなどをめぐって講義する。また我が国のスポーツ教育政策の歴史を概観し、スポーツ教育の諸課題について講義する。	集中講義10:00~ 西暦奇数年度開講。 01EK321と同一。 7/22, 7/29 対面

OATS313	スポーツプロモーションとビジネス	1	1.0	1・2	秋C	木7, 8, 集中	仲澤 眞, 嵯峨 寿	スポーツプロモーションに関連する産業やビジネスを概観し、ビジネスマネジメントの視点からスポーツやスポーツイベントの特徴について事例を通じて講義する。スポーツプロモーションの視点から、プロスポーツの運営やスポーツメーカーのブランディングの事例を取り上げ、スポーツビジネスの現状と課題について講義する。	前半3回(12/21, 1/11, 1/18)は、7, 8限に開講し、後半2回分は1/20に集中講義を行います。集中講義の開講時間は未定。西暦奇数年度開講。01EK322と同一。対面
OATS314	トップアスリートのトレーニング	1	1.0	1・2	秋C	金7, 8	榎本 靖士, 坂入 洋右, 渡部 厚一, 福田 崇, 木越 清信	トップアスリートが競技力を向上するためのトレーニング計画、トレーニング内容およびスポーツ科学の活用方法について学ぶ。スポーツ医学、スポーツ心理学、アスレティックトレーニング理論、体力トレーニング理論、コーチング理論などから最新の知見を提供しつつ、長期育成やベストパフォーマンスについて議論する。	01EK323と同一。対面
OATS315	トップコーチング	1	1.0	1・2	秋C	火7, 8	仙石 泰雄, 岡田 弘隆, 川村 卓, 吹田 真士, 小井土 正亮	世界のトップをめざした競技力向上のフレーム(枠組み)を理解し、そこで重要な役割を果たすコーチに必要な資質やスキルを学ぶ。オリンピックやワールドカップなどでアスリートが高いパフォーマンスを発揮するためのコーチングの理論と実際を学ぶ。世界の強豪国・地域の視点、競技特性の視点、世界の動向など、さまざまな観点から、トップレベルのコーチに求められる役割や資質について考える。	01EK324と同一。対面
OATS316	生涯スポーツのトータルマネジメント	1	1.0	1・2				競技スポーツとは異なる目的、側面を持つ身体運動・スポーツのマネジメントについて理解を深めることを目標にする。競技スポーツとは異なる目的、側面を持つ野外教育・スポーツ、舞踊、体操などの歴史や教育的側面を踏まえた最新のコーチングやマネジメントについて学ぶ。また、障害者スポーツについての現状と課題を検証し、理解を深める。	西暦偶数年度開講。01EK325と同一。
OATS317	多様なスポーツとインクルージョン	1	1.0	1・2	春C	火7, 8	佐藤 貴弘, 齊藤 まゆみ, 山口 拓, 平岡 拓晃, 松井 崇	近年、スポーツは多様な人々が多様なスタイル・目的で楽しむための理解、環境構築が進んでいる。一方で、多様なスポーツとインクルージョンには課題も散見される。この授業では、国内外の多様なスポーツの現状や目指すべきインクルージョンのあり方について考える。	対面
OATS351	コミュニティスポーツプロモーション論特講	1	1.0	1・2				わが国のコミュニティ・スポーツの政策史と研究史に振り返り、どのような実践や研究が蓄積されてきたのか、その社会的・政策的意義と実践及び研究の課題を理解する。とくに今後のコミュニティ・スポーツプロモーションを構想・実践するために総合型地域スポーツクラブやユーススポーツ(学校運動部)およびスポーツによる地域活性化の課題と将来像についてスポーツ空間論、市民社会論、社会運動論、デモクラシー論、社会関係資本論を参考にしながら講義をする。	履修は本学位プログラムの在籍生に限る。西暦偶数年度開講。
OATS352	国際スポーツビジネス論	1	1.0	1・2	秋C	集中	高橋 義雄, 森村 國仁	今日グローバルに展開される国際スポーツビジネスについてヨーロッパ、アメリカ、アジア、途上国の現状を理解し、それぞれの地域で必要な高度な知識、ビジネススキル、ビジネスマインドを学ぶ。また国際スポーツビジネスで必要なマネジメント能力を非常勤講師や招聘する実務家を通じて学び、グループごとに示されたテーマに沿った分析を行い、グループ発表することでコミュニケーションスキルも身に着ける。	01EK320と同一。対面
OATS371	スポーツ健康科学論I	1	1.0	1・2				・スポーツ界、健康界の最前線で活躍する講師を迎え、スポーツと健康に関するトピックスを概観する。 ・スポーツや健康に関する高度専門職業人として現職を持つ修了生が、現場における問題の所在の究明や解決、および様々な実践に関して講義する。さらに、大学院本専攻で学び、研究したことがどのように活かされているのか、その方法論についても講義する。そして、研究した成果のさらなる進歩、今後の可能性について言及し、研究の視野を広げることを目指す。	西暦偶数年度開講。01EK311と同一。

3-1-1専門科目(選択)ヘルスプロモーション領域

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OATS410	ヘルスプロモーション論特講	1	2.0	1・2	春AB	火7, 8		久野 譜也, 田邊 解	健康増進政策とは何かを理解した上で、国、県、市町村、企業等における健康政策の現状と課題を把握する。さらに健康政策の具体的な策定方法における基礎的理解を深める。我が国及び諸外国における運動を中心としたヘルスプロモーションのための政策課題について概説し、その目的、内容、方法等の特徴を明らかにするとともに、我が国における今後のヘルスプロモーションの政策課題の方向性について講義する。	01EK401と同一。対面

OATS411	ヘルスプロモーション 論演習1	2	1.0	1・2	春ABC	随時	久野 譜也	ヘルスプロモーションのためのスポーツ実践の条件と要因を導き出すとともに、学生の実践的課題に対応しながら、スポーツ（運動）によるヘルスプロモーションのためのシステム編成とそのマネジメント、資源整備及びプログラム開発等の具体的な方法について演習する。	01EK412と同一。 対面
OATS412	ヘルスプロモーション 論演習2	2	2.0	1・2	秋AB	火7,8	久野 譜也, 米納 弘渡	ヘルスプロモーションのためのスポーツ実践の条件と要因を導き出すとともに、学生の実践的課題に対応しながら、スポーツによるヘルスプロモーションのためのシステム編成とそのマネジメント、資源整備及びプログラム開発等の具体的な方法について演習する。また、感染症、心身疾患あるいはドーピング等のスポーツにおける健康阻害状況に関する具体的事例も取り上げ、その発症のメカニズムを分析し、その原因と対策について検討する。	01EK413と同一。 対面
OATS413	ヘルスプロモーション 論実習	3	1.0	1・2	通年	随時	久野 譜也	地域もしくは職域における健康づくりの実態を理解する。また、それらをレポートにまとめ、発表できる能力を養成する。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験を重視し、そこから導かれる実践的な課題を取り上げ、それをシステムの課題に洗練するとともに、現職やそれと関わるフィールドワークを通じて、課題解決に志向したシステムモデルのデザインを実習する。	01EK405と同一。 対面
OATS420	健康開発プログラム論 特講	1	2.0	1・2	秋B	金7,8, 集中	柴田 愛	行動科学の考え方を応用して、健康行動（主に、身体活動や運動）を推進させるプログラム開発に関する基礎的および専門的知識を獲得できるようにする。健康行動を推進させるプログラム開発に活用されている行動科学の理論やモデルの基礎的な考え方について理解を深めるとともに、それを応用した様々な実践例について学ぶ。	集中講義10:00~ 01EK406と同一。 11/18, 12/2 対面
OATS421	健康開発プログラム論 演習1	2	1.0	1・2	秋ABC	随時	柴田 愛, 清水 和 弘	健康増進のための効果的な支援策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための基礎的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。効果的な健康開発プログラムに関する近年の具体的事例を取り上げ、情報検索、論文読解、統計解析、プレゼンテーションスキルについて学習する。	01EK414と同一。 対面
OATS422	健康開発プログラム論 演習2	2	2.0	1・2	春AB	金7,8	柴田 愛, 清水 和 弘	健康増進のための効果的な支援策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための応用的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。我が国及び諸外国において実践されている健康開発プログラムの中から自らが興味のある特定のテーマを決めて、その有効性と課題について文献的に検討・発表する（ディレクティブディンク）。これらの分析をもとに、学生それぞれの実践的な課題について演習する。	01EK415と同一。 対面
OATS423	健康開発プログラム論 実習	3	1.0	1・2	通年	随時	柴田 愛	効果的な健康開発プログラムを計画・実行していく上で役立つ基礎知識と実践的技能を学ぶ。学生の現職経験から導かれる健康開発プログラムの課題を取り上げ、現職域及び関連組織・機関等をフィールドにして、課題解決に向けた情報収集、健康開発プログラムの計画と実践、評価について実習する。	01EK410と同一。 対面
OATS464	ヘルスプロモーション 研究方法論IV	2	2.0	2	秋ABC	随時	久野 譜也, 柴田 愛, 清水 和弘	文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、修士論文・特定課題研究報告書を作成することを目標とする。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、その課題をシステムの視点から整理することにより専門研究にむけた課題に洗練する。この専門研究課題を現職及び関連組織等の状況にフィードバックしながら実践的問題解決のための研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験を生かしたシュミレーションを行い、具体的な解決計画のモデル提案を目指した修士論文・特定課題研究報告の作成を指導する。	01EK416と同一。 対面
OATS465	ヘルスプロモーション 研究方法論V	2	2.0	2	春ABC	随時	久野 譜也, 柴田 愛, 清水 和弘	文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、修士論文・特定課題研究報告書を作成することを目標とする。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、その課題をシステムの視点から整理することにより専門研究にむけた課題に洗練する。この専門研究課題を現職及び関連組織等の状況にフィードバックしながら実践的問題解決のための研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験を生かしたシュミレーションを行い、具体的な解決計画のモデル提案を目指した修士論文・特定課題研究報告の作成を指導する。	9月末修了予定者用 01EK417と同一。 対面

3-1-2専門科目(選択)ストレスマネジメント領域

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OATS510	ストレスマネジメントシステム論特講	1	2.0	1・2	秋AB	水7,8		水上 勝義	ストレスマネジメントに関する知識と技能の習得と、ストレスマネジメントのシステム開発の理論と技法について習得する。ストレスの概念を理解し、ストレスがもたらす生体反応やストレスに関連した健康問題について学習する。さらに健康促進のための個人と社会におけるストレスマネジメントシステムについて学習する。	集中講義10:00~01EK501と同一。対面
OATS511	ストレスマネジメントシステム論演習1	2	1.0	1・2	秋ABC	随時		水上 勝義	学生の興味をもつストレスマネジメントシステム開発に関するテーマで、順に発表し、討議しあうことで学習を深める。職場、学校、家庭、地域などのストレスマネジメントシステムについて、その有効性や課題について、具体的な事例を取り上げ分権的な考察を行いながら検討する。この分析をもとに、学生の現職経験から得られる実践的課題を整理し、その課題解決に向けたストレスマネジメントシステムの効果的なモデルの作成について演習する。	01EK512と同一。対面
OATS512	ストレスマネジメントシステム論演習2	2	2.0	1・2	春AB	金7,8		水上 勝義	学生の興味をもつストレスマネジメントシステム開発に関するテーマで、順に発表し、討議しあうことで学習を深める。職場、学校、家庭、地域などのストレスマネジメントシステムについて、その有効性や課題について、講師陣を前にして各自の研究計画を発表する。講師陣とのインタラクティブなやり取りを通して、課題解決に向けたストレスマネジメントシステムの効果的なモデルの作成について演習する。	01EK513と同一。対面
OATS513	ストレスマネジメントシステム論実習	3	1.0	1・2	通年	随時		水上 勝義	現場での健康問題や社会問題の解決につながるストレスマネジメントの技能や、ストレスマネジメントシステムの開発技能を習得する。学生の現職経験から導かれるストレスマネジメントの具体的な課題を取り上げ、現職やそれに関連したフィールドワークを通じて、課題解決に向けた情報収集を行い、また課題解決を志向したシステム開発について実習する。	01EK505と同一。対面
OATS520	コミュニティメンタルヘルス論特講	1	2.0	1・2	春A 春B	木7,8 集中		辻 大士	社会的要因や国・地域の環境とメンタルヘルスとの関わりを学習する。さらに、それらの要因について、現状把握→課題設定→手ごかり発見→実践・介入→効果検証→プログラム改善を円滑に進める、一連のマネジメントサイクルを学習する。	01EK521と同一。5/20,6/3対面
OATS521	コミュニティメンタルヘルス論演習1	2	1.0	1・2	春ABC	随時		辻 大士	メンタルヘルスを中心とした健康の社会的決定要因を探索し、その要因の改善を図るための具体的なマネジメント方略を学習することで、各現場への実践・介入の手ごかりを得る。コミュニティメンタルヘルス論特講の内容と自身の興味に基づき研究構想や計画を立案し、その研究を進める上での情報収集、データ収集、統計解析、考察、研究発表についての実践的な技能について演習する。	対面
OATS522	コミュニティメンタルヘルス論演習2	2	2.0	1・2	秋AB	木7,8		辻 大士	学生が興味をもつ、メンタルヘルスやその社会的決定要因、健康格差に関するテーマで順に発表し、討議しあうことで学習を深める。国、地域、職域、学校などの各集団における、抱える課題の実態や解決方略についての先行文献をレビューし、それらを踏まえた各自の研究計画を発表する。それにより、新規性、社会的意義、実現可能性を兼ねそろえた優れた研究テーマを設定し、その遂行について演習する。	対面
OATS523	コミュニティメンタルヘルス論実習	3	1.0	1・2	通年	随時		辻 大士	メンタルヘルスを中心とした健康の社会的決定要因を探索し、その改善を図るための基礎知識と実践的スキルを学ぶ。また、学生の現職経験から導かれる実践的な課題を取り上げ、現職やそれに関連したフィールドワークを通じて、課題解決に向けた情報収集を行い、それに基づく課題解決方略の計画、実践、評価について実習する。	01EK525と同一。対面
OATS564	ストレスマネジメントシステム研究方法論IV	2	2.0	2	秋ABC	随時		水上 勝義, 辻 大士	学位論文の作成のための研究計画法、研究方法論、研究分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて一般的なガイダンスと具体的な指導をおこなう。ストレスマネジメントシステムに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。その研究計画に基づいて、フィールドでの介入計画を実施し、そのプログラムの可能性と限界を行動科学的に明らかにする修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。	01EK516と同一。対面

OATS565	ストレスマネジメントシステム研究方法論V	2	2.0	2	春ABC	随時		水上 勝義, 辻 大士	学位論文の作成のための研究計画法、研究方法論、研究分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて一般的ガイダンスと具体的指導をおこなう。ストレスマネジメントシステムに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。その研究計画に基づいて、フィールドでの介入計画を実施し、そのプログラムの可能性と限界を行動科学的に明らかにする。修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。	9月末修了予定者用 01EK517と同一。 対面
---------	----------------------	---	-----	---	------	----	--	-------------	---	--------------------------------

3-2専門科目(関連)ヘルスプロモーション分野

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OATS611	生活機能増進法論特講	1	1.0	1・2	秋C	水7,8		向井 直樹, 竹村 雅裕, 小崎 恵生, 金森 章浩, 河野 禎之	心身特性を把握し、運動機能、生命維持機能や認知機能などの向上に必要な運動プログラムを組み実践できることを目標とする。生活機能病(運動器、各種臓器、認知機能の障害)に焦点を当て、生涯にわたって生活機能の向上(寝たきりの予防)法の開発やその指導法に関して学習する。臨床スポーツ医学的アプローチを含む。	01EK621と同一。 対面
OATS612	健康増進基礎論特講	1	1.0	1・2	春C	金7,8		渡部 厚一, 國部 雅大, 松井 崇, 中田 由夫, 下山 寛之	健康増進の基礎的な知識、理解力、研究能力を高めるためにヒトの心身の形態、機能の自然科学的な知識、研究成果を学ぶ。心身の健康を維持・増進するためには運動、栄養などの知識、研究が必要である。本授業では運動が心身に与える影響を運動解剖学的、スポーツ生理学、生化学、筋生理学、疫学の観点からそれぞれの専門家が概説し健康増進の科学的理解と研究に資することを目的とする。	01EK622と同一。 対面
OATS613	健康社会論	1	1.0	1・2	春BC	集中		武田 文, 門間 貴史	地域・職域における健康問題とその心理社会的要因および保健政策・保健サービス事業について学び、健康問題解決への社会的アプローチを理解する乳幼児期~高齢期までの各ライフステージにおける健康問題を、家庭・地域・職場など生活領域別にとりあげ、各問題と社会環境要因との関わりを論じる。そして問題解決に必要な社会的支援策のあり方について、公衆衛生の観点から解説する。	集中講義9:30~ 01EK623と同一。 7/1,7/8 対面
OATS614	健康支援の理論と実践	1	1.0	1・2	春C	木7,8		大藏 倫博, 坂入 洋右, 木塚 朝博, 麻見 直美, 中田 由夫	国民の健康の保持・増進に向けた理論と実際現場での具体的な支援のあり方について学習する。集団や個人を対象として、各種の疾患や健康段階、ライフステージにおける課題解決に向けたさまざまな健康支援方法の理論と実践について概説するとともに、その具体的事例について講義する。	01EK624と同一。 対面
OATS615	ヒューマン・ケア科学概論	1	1.0	1・2					人を支援する課題に向けて、高齢者ケアリング学・社会精神保健学・生活支援学・保健医療政策学・福祉医療学など専門性の高い領域が連携し学問的な融合を目指すヒューマン・ケア科学の幅広い視座から、特にヘルスプロモーションに注目し医学・福祉学・保健学・看護学の理論と実践を学習する。実学としてのヒューマン・ケア科学について、その理論とアプローチの効果を概説する。また、子どもから高齢者の健康生活上の問題や虐待、生活リズムの変調、うつや自殺に関連する事項をとりあげ、人々の心身の安寧を脅かす現象を概説する。さらに障害福祉について諸外国の現状を比較すると共に、保健医療政策への応用としての経済学や今日的な課題についての生命倫理を講義する。	西暦奇数年度開講。 01EK625と同一。 2023年度開講せず。
OATS616	スポーツ健康統計学特講	1	1.0	1・2	春B	集中		大藏 倫博	ヒストグラム、正規分布、平均値、標準偏差、相関分析について理解することを目標とする。統計学の初心者の理解を促進するために、ヒストグラム、正規分布、平均値、標準偏差、相関分析などスポーツ健康統計学の基礎について、演習・実習形式の授業を取り入れつつ具体的に学ぶ。	集中講義10:00~ 履修は本学位プログラムの在籍生に限る 01EK607と同一。 6/10, 6/17 対面
OATS617	質的研究基礎論	1	1.0	1・2	秋A	集中		橋爪 祐美	質的研究の基本的理解として、発展の背景・経緯等を学習する。今回は質的研究の中でグラウンデッド・セオリーを取り上げ、受講者の課題等をもとにビギナーレベルのデータ収集および分析法について学習する。	集中講義10:00~17:00 履修は本学位プログラムの在籍生に限る 01EK631と同一。 10/14, 10/21 対面
OATS651	スポーツ健康統計基礎論	1	1.0	1・2	夏季休業中	集中		田邊 解	スポーツ・ヘルスプロモーション分野で収集される定量的・定性的データを統計的に分析する基礎知識を学習する。また、科学論文作成を想定して、データの収集から整理、分析、及び解釈までの一連の手順を演習する。	集中講義10:00~ 履修は本学位プログラムの在籍生に限る 01EK611と同一。 9/9, 9/23 対面

OATS671	スポーツ健康科学論II	1	1.0	1・2	秋ABC	集中		柴田愛 他	<p>・スポーツ界、健康界の最前線で活躍する講師を迎え、スポーツと健康に関するトピックスを概観する。</p> <p>・スポーツや健康に関する高度専門職業人として現職を持つ修了生が、現場における問題の所在の究明や解決、および様々な実践に関して講義する。さらに、大学院本専攻で学び、研究したことがどのように活かされているのか、その方法論についても講義する。そして、研究した成果のさらなる進歩、今後の可能性について言及し、研究の視野を広げることを目指す。</p>	西暦奇数年度開講。01EK608と同一。対面
---------	-------------	---	-----	-----	------	----	--	-------	--	------------------------

履修方法・修了要件

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
スポーツウエルネス学学位プログラム(博士前期課程)

科目区分		条件又は科目名等	修得単位数
学術院共通専門基盤科目		必修(スポーツ・ヘルスプロモーション方法論)	1
専門科目(必修)	分野共通	必修	3
専門科目(選択)	分野共通	選択必修	1
専門科目(選択)	所属分野所属領域	選択必修	11~ 30
専門科目(選択)	所属分野隣接領域		
専門科目(選択)	他分野	講義科目選択必修	4~
専門科目(関連)	分野共通	選択必修	4~
修了単位数			30

(修了要件)

2年以上在学し、本学位プログラムで定める修了の要件として必要な授業科目の履修により30単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、修士論文あるいは特定課題研究報告書の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

(注)教育上有益と認められる場合には、本学位プログラムの定める範囲において、他の学位プログラムの授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認める。

履修方法の詳細（令和2・3年度入学者）

1. 履修方法

- (1) 以下の大学院共通専門基盤科目1単位及び専門科目（必修）3単位の計4単位を必修とする。
 - ・スポーツ・ヘルスプロモーション方法論（大学院共通専門基盤科目） 1単位
 - ・スポーツ・ヘルスプロモーション論概論 2単位
 - ・スポーツ健康研究方法論Ⅰ 1単位
- (2) 選択した分野の専門科目（選択）から、共通科目スポーツ健康研究方法論Ⅱまたは、スポーツ健康研究方法論Ⅲの1単位、所属領域開設科目9単位及び隣接領域開設の講義科目2単位を中心に計12単位以上を履修する。〔備考〕欄参照のこと。
- (3) 研究主題に関連する他分野の領域開設の専門科目（選択）の講義科目から4単位以上、両分野開設の専門科目（関連）から4単位以上の計8単位以上を履修する。
- (4) 大学院共通科目、他学位プログラム及び他研究群の開設科目を専門科目として履修することができる。
- (5) 単位互換制度に基づく他大学研究科の授業科目を専門科目として履修することができる。

〔備考〕

スポーツプロモーション分野選択者は、専門科目（選択）から下記の(a)(b)を選択必修とする。

- (a) コース内の下記の特講科目のうち3科目以上（所属領域内2科目、隣接領域内1科目）
 - スポーツプロモーション論特講
 - スポーツイベント論特講
 - スポーツマネジメント論特講
 - 高度競技マネジメント論特講
- (b) 分野内の下記の研究方法論Ⅳまたは研究方法論Ⅴうち1科目を選択必修とする。
 - スポーツプロモーション研究方法論Ⅳ
 - スポーツプロモーション研究方法論Ⅴ
 - スポーツマネジメント研究方法論Ⅳ
 - スポーツマネジメント研究方法論Ⅴ（所属領域開設の、研究方法論Ⅳまたは研究方法論Ⅴを必修とする。）

ヘルスプロモーション分野選択者は、専門科目（選択）中下記の(a)(b)を選択必修とする。

- (a) コース内の下記の特講科目のうち3科目以上（所属領域内2科目、隣接領域内1科目）
 - ヘルスプロモーション論特講
 - 健康開発プログラム論特講
 - ストレスマネジメントシステム論特講
 - コミュニティメンタルヘルス論特講
- (b) コース内の下記の研究方法論Ⅳまたは研究方法論Ⅴのうち1科目を選択必修とする。
 - ヘルスプロモーション研究方法論Ⅳ
 - ヘルスプロモーション研究方法論Ⅴ
 - ストレスマネジメント研究方法論Ⅳ
 - ストレスマネジメント研究方法論Ⅴ（所属領域開設の、研究方法論Ⅳまたは研究方法論Ⅴを必修とする。）

2. 修了要件

上記の方法で30単位以上修得し、修士論文あるいは特定課題研究報告書の審査及び最終試験に合格すること。

履修方法の詳細（令和4年度以降入学者）

1. 履修方法

- (1) 以下の大学院共通専門基盤科目1単位及び専門科目（必修）3単位の計4単位を必修とする。
 - ・スポーツ・ヘルスプロモーション方法論（大学院共通専門基盤科目） 1単位
 - ・スポーツ・ヘルスプロモーション論概論 2単位
 - ・スポーツ健康研究方法論Ⅰ 1単位
- (2) 選択した分野の専門科目（選択）から、共通科目スポーツ健康研究方法論Ⅱまたは、スポーツ健康研究方法論Ⅲの1単位、所属領域開設科目9単位及び隣接領域開設の講義科目2単位を中心に計12単位以上を履修する。〔備考〕欄参照のこと。
- (3) 研究主題に関連する他分野の領域開設の専門科目（選択）の講義科目から4単位以上、両分野開設の専門科目（関連）から4単位以上の計8単位以上を履修する。
- (4) 大学院共通科目、他学位プログラム及び他研究群の開設科目を専門科目として履修することができる。
- (5) 単位互換制度に基づく他大学研究科の授業科目を専門科目として履修することができる。

〔備考〕

スポーツプロモーション分野選択者は、専門科目（選択）から下記の(a)(b)を選択必修とする。

- (a) コース内の下記の特講科目のうち3科目以上（所属領域内2科目、隣接領域内1科目）
 - スポーツプロモーション論特講
 - スポーツイベント論特講
 - スポーツマネジメント論特講
 - 高度競技マネジメント論特講
 - プロスポーツマネジメント論特講
- (b) 分野内の下記の研究方法論Ⅳまたは研究方法論Ⅴうち1科目を選択必修とする。
 - スポーツプロモーション研究方法論Ⅳ
 - スポーツプロモーション研究方法論Ⅴ
 - スポーツマネジメント研究方法論Ⅳ
 - スポーツマネジメント研究方法論Ⅴ（所属領域開設の、研究方法論Ⅳまたは研究方法論Ⅴを必修とする。）

ヘルスプロモーション分野選択者は、専門科目（選択）中の下記の(a)(b)を選択必修とする。

- (a) コース内の下記の特講科目のうち3科目以上（所属領域内2科目、隣接領域内1科目）
 - ヘルスプロモーション論特講
 - 健康開発プログラム論特講
 - ストレスマネジメントシステム論特講
 - コミュニティメンタルヘルス論特講
- (b) コース内の下記の研究方法論Ⅳまたは研究方法論Ⅴのうち1科目を選択必修とする。
 - ヘルスプロモーション研究方法論Ⅳ
 - ヘルスプロモーション研究方法論Ⅴ
 - ストレスマネジメント研究方法論Ⅳ
 - ストレスマネジメント研究方法論Ⅴ（所属領域開設の、研究方法論Ⅳまたは研究方法論Ⅴを必修とする。）

2. 修了要件

上記の方法で30単位以上修得し、修士論文あるいは特定課題研究報告書の審査及び最終試験に合格すること。